

論点メモ

(都市自治体のモビリティに関する研究会)

2016年12月

(公財) 日本都市センター研究室

□ 論点 1 都市自治体におけるモビリティの現状と課題

- 都市構造の変化(郊外化)と人口減少・高齢化による公共交通利用者の減少
 - 地方都市における高い自動車交通分担率
 - 都市ごとに異なる公共交通の役割・意義
- 事業者の経営環境悪化と施設老朽化による安全性・利便性の低下
 - 採算悪化による事業者の撤退(減便・路線廃止・面的撤退)
 - 公営交通の縮小(民間委託・譲渡・コミュニティ/デマンドバス化・廃止)
 - 安全への投資不足による重大事故のリスク
 - 沿線住民・利用者の意識醸成
- 生産年齢人口減少に伴う公共交通従事者(主にバス運転手)の不足
 - 労働環境・待遇悪化による人手不足・継続性と安全性確保の課題
 - 赤字路線だけでなく、利用客が多い路線のサービス水準を維持することも困難に
 - ネットワークとしての効率化の必要性
- 交通政策に関わる自治体の体制
 - 専門的知識・技能を持った人材の不足による政策の継続性の課題
- 自治体財政の持続性とモビリティ政策への投資
 - 公共交通事業に要する固定費用・資産の自治体による負担・所有
 - 予算における位置づけ・政策の優先度
 - 国の補助制度の活用

□ 論点 2 課題解決に向けた具体的な取り組み

【岐阜市】

- 網形成計画・再編実施計画によるバスネットワークの再編
 - BRT(連節バス)導入による利便性向上と運行台数削減・効率化
- コミュニティバス・デマンド交通の運営効率化
- ICカード導入によるバス利用データの収集・計画検討への活用
- 歩行環境の整備・中心市街地活性化
 - トランジットモールの導入に向けた取り組み(社会実験)

【福江市】

- 公的な財政支援による事業形態の再編
 - 第三セクター化・上下分離方式による鉄道事業再構築
- 設備投資による利便性向上
 - えちぜん鉄道と福井鉄道の相互直通運転の実施・ダイヤ改善
 - 福井駅前広場へのバス・電車の乗り入れ
- 幹線と支線の分離によるバスネットワークの再編
- 歩行環境の整備・中心市街地活性化
 - 駅前の再開発による集客施設の整備

□ 論点 3 地域公共交通および都市構造再編のための計画・制度

- 地域公共交通網再編計画・再編実施計画等
 - 全国的な策定状況・策定自治体の特性
 - 網計画から再編実施計画への移行に当たっての課題
 - ◇ 事業者の経営自由度を制限することのリスクと自治体の責任
 - ◇ 高精度な利用データに基づくこまめな計画の変更
- 立地適正化計画
 - 全国的な策定状況・策定自治体の特性
 - 各種誘導区域の設定
 - 地域公共交通政策との連携
- 計画の実効性確保のための方策

□ 論点 4 モビリティ政策検討・実施のためのデータ・ICT

- ビッグデータ・オープンデータによる交通利用データの収集・分析
 - 収集されるデータの属性情報とプライバシーの課題
 - 定常的に調査・データ収集を行う必要性
 - 収集されたデータの計画へのフィードバック
- オープンプラットフォームによる情報の共有化
- デマンド交通の利用者マッチングなど効率的な運営補助
- 情報端末を活用した利用者への情報提供
 - ICTの運用にあたって事業者・従業員への認識共有

□ 論点 5 今後の都市自治体のモビリティのあり方

- 新たなモビリティの導入・再編と住民との合意形成
- 一つの自治体にとどまらない計画・運営の主体のあり方